

サントリー二島

今回は、このコラムの名称にあるワシントンから離れ、異なる国ギリシャに関してです。ワシントンDCで働いている私が書くのですからこれも“ワシントンDC通信”でしょう。

実質的に生まれて始めてヨーロッパへ行ってきました。“実質的”と書いたのは、生後7カ月の私は両親と共にフランスに行ったことがある、と両親から聞いているからです。しかし、その記憶は私にはまったくありませんので、今回の旅行が私にとってヨーロッパへ行った最初です。ただし、ヨーロッパといっても、行ったのは、その端っこの方のギリシャ、それも首都アテネから飛行機で1時間程度離れているサントリー二島（別名、ティエラ島）でした。サントリー二島はエーゲ海に浮かぶ美しい島です。

サントリー二島へ行ったことがある友人から「美しい場所だ」とは聞いていましたが、出発する前にその島について調べる余裕が無かったし、ほとんど何も先入観を持たずに米国を発ちました。そしてサントリー二島に着陸したときの私の気持ちは、「驚き」、「感動」



などというありふれた言葉ではまったく物足りないのでは。なんたる美しさ！

サントリー二島は、3600年前の火山の噴火と地震によって造られた島です。サントリー二島と、その西側に見える火山の島と残りの島々は、もともと一つの大きな島でしたが、噴火と地震が起こって地形が変わり、撒き散らされたような群島に変貌しました。

その噴火によって、サントリー二島の西側はカルデラ地形の鋭い崖になりました。その崖には3つの町があります。いずれの町にも、白と青を基調色とした数え切れないほどの建物があるのですが、よく観ますと色には黄、茶、赤、紅、グレー、紫なども入っています。しかし、色がそれほど多いにもかかわらず、それぞれの色はほどほどに用いられており、白と青をひき立てていました。

私が泊った町、フィラは3つの町の中でも最も有名な町です。夏でしたら、自由に歩けないほど観光客が溢れていると聞きましたが、幸いなことに私が行ったのはオフ・シーズンだったので人影は少なかったです。

とても不便に感じられる崖に作られたフィ

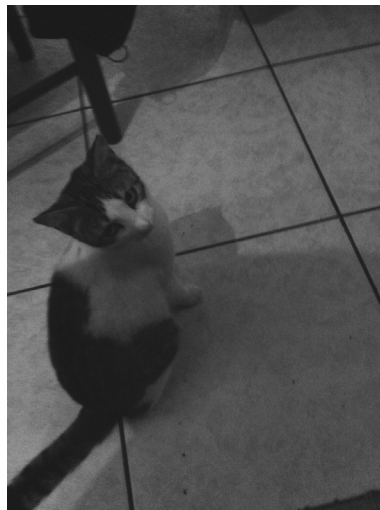
ラの町は、昔の建築と風景を見事に維持しているため、私は「過去」に入ってしまったように思いました。サントリー二島には様々な古代の名残りがあって、その地で最古と考えられているミノア文明（クレタ文明）の遺跡もあります。それらの遺跡をみると、サントリー二島を作った3600年前の地震が、有名なアトランティスを沈ませた原因だったのかもしれない、サントリー二島はアトランティスの一部だったのかもしれない、などと思えてくるのでした。

サントリー二島の“美貌”は私に、その伝説を信じてしまいそうになるくらいの力強さをもっていました。実際、鋭い崖にちらばる白と青の建築を眺めていた早朝、エーゲ海の上の雲の真ん中にポカリと穴が開いて、太陽が見えきて青空が創られてくる瞬間に居合わせた私は、その陽射しの中にギリシャ神話の神々が降りてくる様を現実にあったことのように感じました。

サントリー二島の崖にはたくさんの洞窟が穿たれています。それらの洞窟は、昔から人間が住居として使っていて、私が泊ったホテルの部屋もその洞窟の一つでした。部屋はかなり長いのですが高さもあり、二階にロフトがありました。お風呂も洞窟のような造りで、そこに泊まりながら自分が野生に退行してしまったような気がしました。とは言うものの、本当に洞窟に住んでいる動物ならば、私が食べたような美味しい朝食を毎朝食べてはいません！ホテルの朝食、特に、蜂蜜を入れたグreek・ヨーグルトは絶品でした。

サントリー二島の様々なレストランもすばらしかったです。どこへ行っても食事が非常に美味しく、太るなあ、と心配しながらも我慢できなくて食べまくった事実を告白しておきます。

そして、猫。サントリー二島は野良猫に占められています。道を歩いている時、ホテルの外の椅子に座っている時等々、数々の場面



で猫が寄ってきて、優しく挨拶し、撫でてもらうように話しかけてきました。猫が多いおかげで、ネズミは全くいなかったです(笑)。写真の猫は、最初の夜の食事をいっしょにとったメス猫ちゃんです。美味しい食事のおかげで、彼女と良い会話ができました。

サントリー二島に泊った数日の間、ギリシャが患っているとされる不景気の気配はまったくありませんでした。そういう経済的な悪夢はこの極楽の島に届くことはないのでしょうか。

たまに日々の現実から離れて旅に出るのがいいです。失われそうになっているけど本当はいつも“そこ”にあるアトランティスの一部みたいな理想郷に行くと、時間が止まるようです。偶然遭遇したように、空が開いて、天空から降りてくる陽射しの中に、探していた“答え”が見つかるかも知れません。

筆者紹介

ネルソン・グラム

U.S. Attorney (Virginia Bar), Global IP Counselors, LLP 所属。

1981年米国バージニア州生まれ。ジョージ・ワシントン大学(DC)で国際関係論を学びながら、ウルグアイ大使館でインターン。卒業後、2003年渡日、香川県三野町(現在三豊市)の国際交流協会にて一年勤務。うどんが大好物となる。帰国後、ジョージ・メーソン大学ロースクール卒。2008年8月からGlobal IP Counselors, LLPに弁護士として勤務。趣味は読書、運動。好きな言葉は「鳴かぬ蜚が身を焦がす」。